

CLOSE UP

クローズアップ



金城学院中学校 国語科教師

渡邊直人先生

1964年岐阜県生まれ。南山大学文学部教育学科卒業後、公立の高等学校で教鞭を執った後、1989年から金城学院高等学校、1992年4月から金城学院中学校勤務。教科は国語を担当、部活動は卓球部の顧問を務める。

# 多くの人とのかかわりの中で学び、成長し 今までの殻を破り新しい自分に出会ってほしい

恩師との出会いやアルバイトを通じて教える喜びを知ったと話す渡邊先生。

国語の授業では、作品に対しての意見交換を通して

生徒たちの関心や視野を広げることに力を注がれています。

また「他者と、ともに生きる中で、自分を見つめ成長することが大切」と常に教えていらっしゃる。

## Ⅰ 対話を大切に、視野や関心を広げる授業を展開

私が教師をめざした理由はいくつかありますが、中学時代に通っていた学習塾の先生と出会った影響が大きいと思います。その先生は全盲の方でしたが、教科書を隅々まで覚えて授業を行い、間違えたところのポイントも的確に指摘し、丁寧に教えてくださいました。実際に教師になってみて、その先生のことをあらためてすごい先生だと感じます。

また学生時代、塾の講師を経験したことも一つのきっかけになりました。教えるということは大変でしたが、生徒が理解し喜んでくれることにやりがいを感じました。

私が担当する国語の授業では、身近な話題から生徒の関心を引き出すようにしています。たとえば宮澤賢治の「雨ニモマケズ」では、プリントで作者の思いや自分自身の考えを整理したあとで「お金がなくても愛があれば本当は生きていけるのか」「自分自身にとっての理想の生き方とはどのようなものか」などさまざまな方向から考えを発言してもらったこともあります。まずは共通理解として作品のテーマや筆者の思いを理解すること、その上で自分の意見を持ち、共感できる部分や自分の考えと違う部分を表現できる力を身に付けてほしいと思っています。またクラスメイトの発言を聞くこと

で、同世代の友人がどう感じ、考えているのかを知ることも大切だと思います。対話を大切にしながら、生徒たちの関心や視野をさらに広げていきたいと考えています。金城学院では素直で豊かな感性を持った生徒が多いので教えることはとても楽しいです。私自身も担当教科以外のさまざまな分野の事柄にも関心を持って学ぶ教員として成長したいと思っています。

部活動では練習に取り組む姿勢などに対して、少し厳しく指導を行っています。卓球に限らずスポーツは基礎が大切ですので、基本技術の反復練習は欠かせません。生徒にとっては退屈な練習かもしれませんが、こうした日々の積み重ねの大切さを教えるとともに、真剣にスポーツに取り組むことで経験する喜びや悔しさ、厳しさを将来の自分の糧にしてもらいたいと考えています。

## Ⅱ 不安定な時期を乗り越え、人間として成長を

中学の3年間は、ものすごい早さで成長を遂げる時期であり、新しい「自分」が作られる期間でもあります。まるで青虫がサナギになり、蝶になるような劇的な変化を遂げていきます。実際にサナギが羽化する瞬間が感動的であるように、不安定な時期を乗り越えて成長していく姿を見られることは、教師として本当に嬉しいこと

です。人は人の中で育つことで初めて「人間」になると私は思っています。中学時代は多くの人とのかかわりの中でさまざまなことを学びながら成長するときです。生徒たちにも自分の殻を壊して新しい自分を作っていくことや、自ら成長する意志を持つことが大切だということをこれからも伝えていきたいと考えています。

### 渡邊先生はどんな人！?

2年生の担任クラスの生徒たちに渡邊先生の印象を伺いました。すると「一つの作品をいろいろな視点から勉強できる」「先生の話がおもしろく、授業が楽しい」という声が聞かれました。また「意見を求めるときのパフォーマンスがおもしろい」との声もあり、楽しい国語の授業の様子が窺えました。

